

第一景

露天神社（お初天神）

①



恋だけじゃない！街の歴史が凝縮された場所。

恋人の聖地「お初天神」として知られる梅田・曾根崎の総鎮社「露天神社」。この界隈はかつて大阪湾に浮かぶ孤島でした。ここにまつられていた日本最古の祭典「難波八十島祭」旧跡の一つ「住吉須牟地曾根神社」が起源。人々を惹きつけて止まない理由は、実は「恋愛」だけではなくたのです。



本社前に立てば境内がぐりと見渡せる

日常生活全方位にご利益!? 街なかの最強パワースポット

縁結びで人気が高いお初天神。しかし、ご祭神に少彦名大神、大己貴大神、天照皇大神、豊受姫大神、菅原道真公を祀り、病気平癒、商売繁盛、学問など、あらゆるご神徳を持つことから、実はほぼ全ての願いにご利益がある最強パワースポットなのです。



MINI COLUMN 露天神社の由来って？

菅原道真公が太宰府へ左遷配流される途中、大融寺への道すがら詠んだ歌「露とちる涙に袖は朽ちにけり 都のことを思い出づれば」にちなみ、「露天神社」と称するようになったという説が有名。また境内に今も残る、梅雨の頃には水が湧き出たという「神泉 露の井戸」からなど諸説あります。



真水が少なかった昔の大阪で重宝された「神泉 露の井戸」。現在の水量はごくわずか

“恋の手本”とされた 切ない物語『曾根崎心中』

醤油屋の手代徳兵衛は、堂島新地の遊女・お初と恋仲でした。ところが持ちかけられた縁談を断ったところ、主人を怒らせてしまうことに。さらに主人に返すべき大切なお金を友人に騙し取られて生きる術をなくし、露天神の森の木にお互いを縛って二人は心中してしまいます……。

1703 (元禄 16) 年、実際に露天神社の境内で起きた心中事件をモデルに、近松門左衛門が人形浄瑠璃として作品化したところ空前の大ヒット。涙を誘う二人の純愛は“恋の手本”とされ、そのヒロインの名前「お初」にちなんで「お初天神」と呼ばれるようになりました。



恋に殉じた二人を慰霊する石碑

これまでに三度ブレイクしたお初天神

最初のブレイクは『曾根崎心中』が初演された1703 (元禄 16) 年。人気を博したものの、永遠の愛を誓う心中事件があちこちで発生。困った幕府は1722 (享保 7) 年、ついに心中物の上演を禁止しました。

その後、250年の時を経て1953 (昭和 28) 年に歌舞伎で復活。その時のお初が、生涯をかけて上方歌舞伎を追求した坂田藤十郎さん (当時は二代目中村扇雀) です。お初が徳兵衛の手を引く形で先に花道を引っ込むという、それまでの立役 (男役) から一歩下がる女役 (常盤) を打ち破った演出が話題になり、一躍ブームに。自らの意志で男性をリードする姿は、社会進出を果たしていく当時の女性たちの共感を博しました。翌々年には人形浄瑠璃も再演され、上方文楽に江戸時代の名作が舞い戻ったのです。今日では「恋人の聖地」として若者に人気を集め、縁結びのご利益がある絵馬やお守りも豊富です。



強い絆で結ばれたいと願う女性の参拝客が多い



良縁祈願の絵馬をはじめ、顔のないお初のイラストに顔を描いて真の美人を願う最新作も人気だ

つやのてんじんしゃ 露天神社 (お初天神)

▶ 曾根崎 2-5-4
参拝自由 6:00 ~ 24:00 (社務所 9:00 ~ 18:00)

MINI COLUMN 坂田藤十郎もキタ!

境内にあるお初と徳兵衛のブロンズ像は、氏子からの寄付をきっかけに二人の霊を慰めようと同社が設置したもの。べっぴんなお初の像は初演を演じた坂田藤十郎さんをモデルに作られました。二人の命日から300年後の2004年4月7日に催された除幕式に藤十郎さん (当時は三代目中村扇雀) も参加し、「私が歌舞伎役者としての人生を歩んでこられたのはお初さんのおかげ」と語っています。



どこか思い詰めた表情が涙を誘う



こちら女性に人気! 開運稲荷神社

お初と徳兵衛のブロンズ像のすぐ近くに鎮座する「開運稲荷神社」は、美肌祈願と美人祈願ができると女性に話題。ご祭神は、玉津大神、天信大神、融通大神、磯島大神の4柱で、1909 (明治 42) 年「北の大火」によって付近にまつられていた稲荷社を、翌年に露天神社の境内に合祀したのが始まり。かつては皮膚病の治癒を願って、なまずの絵馬がたくさん掛けられていたとか。



「玉津稲荷」と書かれた鳥居をくぐって社殿へ